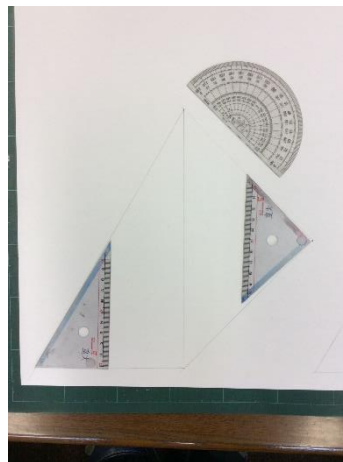


卒業記念授業

来週始めに6年生に授業をする機会を頂きました。
「卒業記念授業」です。かつて、私も附属小で6年生を担当していた頃（平成5年、11年、13年）に当時の横須賀薫校長先生や高橋孝助校長先生、数見隆生校長先生に教室で授業をしていただきました。担任として、自分の教室で校長先生や副校長先生に授業をしていただくことはとても嬉しかったので、私も精一杯6年生と授業をしたい、と思っています。

このような機会を作っていただいた6年生の先生方には改めて感謝したいと思います。

授業は当初「卒業する君たちへ」と題して行う予定でしたが、27日に千真先生が算数科の全校授業に取り組んでいる様子を見て、私も算数に挑戦したいと考えました。ちょうど5年生の教科書を見せていただく機会があったので、内容的には5年生の三角形と四角形の内角の和を使って、「三角定規の見方」を広げることをねらいに行ってみたいと思います。遠藤宏紀先生から厚紙をお借りして久しぶりに教材を作成すると胸が高鳴ります。今回は『算数的思考法』（岩波新書）坪田 耕三著』を参考に、附属小バージョンにアレンジして授業を組み立ててみました。



では、授業プランを紹介します。「2つの三角定規」を題材にします。

まず、三角定規のそれぞれの角度を確認します。

30°	45°	60°	90°
-----	-----	-----	-----

ポイントは、60°と90°の間のブランクです。そこで、ここに入る数「75°」と「15°ずつ増える」を予想させます。でも、75°は三角定規にはない角度です。そこで

「75°はないけど、2枚の三角定規で作れるか」と最初の発問をします。

ここは、30°と45°を合わせればできるのでそんなにハードルは高くないと思います。

また作図に正確性は求めないのでフリーハンドで作業の結果を図示させます。（以下この時間の記録はフリーハンドで可とします）次に30°の前や90°の後にも15°ずつ角度を加えます。

15°	30°	45°	60°	75°	90°	105°
-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

ここで**「15°や105°も2枚の三角定規で作れるか」と2つ目の発問**です。

105°は合わせればできますが、15°をいかに作るかが最初のポイントです。

ここはできれば、45°に30°を重ねて、その差が15°であることを作業と対応させて筋道を立てて説明させたいところです。そして、いよいよ中心場面です。

15°	30°	45°	60°	75°	90°	105°	120°	135°	150°	165°	180°	...
-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	-----

105°からさらに15°ずつ角度を広げていきます。

「2つの三角定規を使えば、15°の倍数の角度は全て作れるか」と3つ目の発問（中心発問）です。

さあ、ここからが本題です。

瓜生先生がお話しされたよう子どもたちと楽しむことができればねらい達成です。

※ちなみに吉川校長先生の記念授業は3月8日（木）。テーマは「みんなで『音楽』をつくろう」
学級毎に行われる予定です。（文責：副校長 手代木）